

## 言葉探し／コード探し

日高 昭二

橋本治らが編んだ『消えた言葉』という本を開いたら、そこに昭和三十年代を通じて一斉に姿を消した言葉が並んでいて興味をひかれた。「罎」「蠅帳」「蚊帳」「卓袱台」などの言葉で、いうまでもなくこれらの言葉は、日常生活の変化にともなって消えた言葉であるが、ぼくらの世代では、それに対応するモノの記憶がまだ残っているから、その背景の説明にそれほど苦慮するわけではない。むずかしいのは、言葉の意味がどうしても気になるとともに、それがどうやらテキストのコード探しでもあるらしい、と気がつく場合なのである。

たとえば「卓袱台」という言葉。これで思い出すのは漱石の『こころ』で、「先生」が友人のKを出し抜いてお嬢さんとの結婚を申し込む、その翌朝の風景にこれが出てくる。「先生」とKの間にどんな事情があったかを知らない奥さんは、下宿人のKに「あなたも祝ってくださいな」と同意を求める。そこでKは「鉛のやうな飯を食べた」とされる、あの「卓袱台」である。

この「卓袱台」が、今で言う「ダイニング・キッチン」に取って代わられたことを言うのはやさしいが、しかしこの「卓袱台」の風景が、当時としていかに新しい風景であったかを、文化の起源として説明するのはなかなかむずかしい。それでこの場合の「卓袱台」(どうやらこれは「卓袱」=「しっぽく」料理からきたらしく、チャブは「卓袱」の中国音chuofuの転化ともいう)は、そのかたちが丸く、したがって席順に上下のない、それゆえに家族的な風景を作り出すのにはもってこいであったという、そういう小道具のコードから説き及ぶことにもなるのである。

これまでのように、文学テキストを「近代化」の理念や思想としてただ批評的に眺めるだけなら、こんな苦労はいらない。かりに「近代」に光

を当てるにしても、それを解く鍵はむろん一つではなく、ましてや複雑な生き物である文学テキストには言葉一つにさえこだわりの種が隠されていることは言うまでもない。

樋口一葉のテキストに「離縁」という言葉はあっても「離婚」はない。そのことに気づくや、さてそれでは「離縁」がいつごろ「離婚」となったかと調べ出すと、これがなかなか厄介なことになるわけだ。「女性」という言葉もそうで、『国語大辞典』では明治十七年丸善刊行の『英和双解辞典』が初出例とあるが、最近の研究ではもう十年は遡れるらしい。もちろん言葉の起源が問題なのではなく、それが伝統的な「によしょう」「によにん」の觀念からどれだけ離れているかが大事なことなのである。ついでに「新婚旅行」は「ハネムーン」の訳語だが、これも、明治二十年代の「甘月遊」からいくつかあって、ようやく昭和のはじめに鉄道網の整備とともに定着したもようである。この「ハネムーン」などは、実体的な背景のないところで移入された言葉であるから、その訳語が時代のなかでウロウロすることのほうにむしろリアリティがある。そのほかにも、これも今では死後の一つ「プロレタリア」という言葉なども、これは語源(ラテン語のプロレタリウス)からして複雑なコードを抱えているから注意が要る。

消えた言葉には、それに対応するモノが復元されればそれなりに解る言葉もあるが、それでも時代の気分まで復元するのは容易なことではない。

「ズロース」を手近かな辞書で引いて「婦人用の下着の一」などと解ったところで何の意味もない。まして「貧乏」「深窓の令嬢」などという言葉の説明するとなると、ぼくなどは一週間かけてもしゃべり尽くせない。

# 語用論の最近の動向

——関連性理論を中心に——

井谷 玲子

プラグマティックスと呼ばれる言語学の一分野は日本語では語用論と訳され、あるコンテキスト内でいかに語（又発話）を用いるかを決定する理論と考えられることもある。例えば Leech (1983) は丁寧さの原則を唱え社会言語的制約を挙げている。しかしながら、Austin (1962), Searle (1969) は真理条件に基づく意味論の限界を指摘しスピーチアクト理論を唱え、言語使用上の制約というより、発話行為の意味解釈の説明を試みた。さらに Grice (1975) は協調の原則と質、量、関連、マナーという4つの公理を唱え、発話解釈の際の聴者の推論のよりどころになるとした。Griceは、推論によって導かれた意味を implicature (含意) とし、文の表わす命題の真理条件では扱えない意味としている。例えば次の Peter の応答は一見 Mary の質問に答えていないようだが、聴者が関連の公理に基づいて推論をするとつじつまのあう含意が導かれる。

(Early in the morning)

(1) Mary: What time is it now?

(2) Peter: The milkman has just come.

(3) Implicature: It's around 6:30 a. m.

(4) Context: If the milkman's come, it's around 6:30 a. m.

Mary と Peter は上記のコンテキストを共有し、それに基づいて上記の含意、つまり Mary の質問に関連する答えが導かれる。Grice はこの含意の recovery process を '推論' としているが、その推論過程を明示していない (Sperber & Wilson 1986)。

これに対して、Sperber & Wilson は、関連性理論の枠組を使い(3)を導く推論過程を明確化している。関連性理論においては、Implicated Premise (含意された前提) と Implicated Conclusion (含意された結論) が区別され、それぞれに上記の(4)と(3)が該当する。ここで使われる推論ルールは、 $P, P \rightarrow Q \vdash Q$ : Modus Ponendo Ponens と呼ばれる

もので(2)が  $P$  に当たり、 $P \rightarrow Q$  (If  $P$  then  $Q$ ) にあたるのが(4)である。

If  $P$  then  $Q$  (i. e. (4)) というコンテキストを背景に Peter の発話(2)が与えられ (i. e. given  $p$ )、そして Modus Ponendo Ponens により  $Q$  (i. e. (3)) が導かれるのである。

以上推論過程を明確化してきたが、Grice が明確にしていないもう一つの問題、即ちコンテキストの選択の問題について述べよう。Grice 理論では、何故、聴者が次の(5)のコンテキストを選ばず(4)を選ぶかが明らかにされていない。

(5) Context: If milkman's come, a bottle of milk is at the door.

(5)は Peter の発話(2)からアクセスできるコンテキストに異いはない。Grice は、関連の公理を我々の直観的判断に訴え、'Be relevant' と言う以外何も述べていない。確かに(4)から導かれる implicated conclusion (i.e., It's around 6:30 a. m.) が(5)のものより (i.e., A bottle of milk is at the door) Mary の発話(1)と関連性があるのだが、それを説明する理論が必要なのである。

関連性理論は、'Be relevant' を次のように定義している。(i)ある発話とコンテキスト情報両方を使い (i. e. (2)と、(4)又は(5)) 含意を出す。(ii)ある発話がコンテキストにある情報と矛盾し、発話がその既存情報と置きわる。(iii)ある発話がコンテキストにある情報の確信度を強める。

尚、(4)か(5)のいずれかという決定要素であるがそれは 'optimal relevance' という概念である。これは最小限のコストで最大限の効果をあげようとするものである。Mary が時間を聞いたからには、その時間から follow するものがあるからである。例えば6時半ならすぐ出かけなければならない、そうならば、急いで仕度をしなければならないといった類である。それに引き換え、(5)の結論部分である 'A bottle of milk is at the door' は、ミルク

を家に入れなければならないという含意を導くかもしれないが、もしそれがMaryにとって 'optimally relevant' なものであれば、Maryは時間を(1)で聞くのではなく、'Has the milkman come?' と始めから聞いたであろう。

上に考察したように、関連性理論はより説明力のある理論であり今後の発展が期待される。

#### 参考文献

Austin (1962). How to do things with words :

Clarendon

Lemmon (1965). Beginning Logic : Van Nostrand Reinhold

Leech (1983). Principles of Pragmatics : Longmann

Searle (1969). Speech Act : Cambridge

Sperber & Wilson (1986). Relevance : Communication and cognition : Blackwell

## 一般外国語（英語以外）教育を考える

### —— アンケートとヒアリング ——

#### 一般外国語部会

大学当局の「語学教育の改革」計画にしたがって、本学の一般外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語）教育の質の向上と充実を図ることは、国際化時代に即した本学のイメージ・アップの重要な一要素である。

一般外国語部会では、第一回の試みとして、去る6月5日（水）、一般外国語教育に関心を持っておられる先生方のご意見を拝聴した。

出席された方は、経済学部貿易学科の富岡倍雄先生、同経済学科の中村平八先生。工学部機械工学科の赤沢正久先生。外国語学部スペイン語学科の大林文彦先生、同一般英語の松山正男先生、保崎則雄先生。以上である。一般外語部会の中本、犬飼、塚田、佐藤、倉田がそれぞれの立場で応答した。

部会で用意したアンケートの主な事項と答は、以下のとおりである。

I 「一般外国語を選択必修科目にすべきか、あるいは、自由科目（卒業単位にならない科目）にすべきか」

〔本学では、外国語学部の英語英文学科は初級・中級とも選択必修、経済学部は初級のみ選択必修、

短期大学は、フランス語か中国語の初級のみ選択必修。

W大学では、初級・中級とも選択必修。

C大学では、初級・中級とも選択必修。

A大学では、初級のみ選択必修。

Y S大学では、初級・中級とも選択必修。

一般外国語（初級・中級）を自由科目として扱っている大学はごく少数である。〕

○初級・中級とも選択必修とする。(富岡)

○初級・中級とも選択必修とする。(松山)

○初級のみ選択必修とする。(保崎)

○英語を必修科目とせず、他の外国語の中からいずれかを選択必修とする。(赤沢)

○自由科目のままでよい。(大林)

#### II 「一般外国語は、週何コマが適当か」

〔本学の一般外国語授業のコマ数は、初級週2コマ、中級週2コマ。短期大学は週3コマ。〕

W大学では、初級（文学部・週4コマ、他学部・週3コマ、中級週3コマ。

C大学では、初級週2コマ、中級週2コマ。

K大学では、毎日1コマ（集中的の語学を修得する）。

かなり多数の大学が一週間のコマ数を検討している]

- 初級3コマ、中級2コマとする。(富岡)
- 初級3コマ、中級2コマとする。(赤沢)
- 初級3コマ、中級2コマとする。(松山)
- 初級以外、特コマを設けない。(保崎)

Ⅲ 本学では、一般外国語の初級・中級の上に「上級クラス」(2コマ)が設けられていて、3、4年次生対象の自由科目として扱われている。文部省の指示によれば、この科目は「…事情」「…文化論」などの名称に変えて専門科目として扱うことになっているが、今度の改革でどのようにするか。C大学など他大学では、専門科目の外書講読の振替えたり、廃止したりしている。

- 各学部・学科の意向にしたがって専門科目とする。(富岡)
- 各学部・学科の意向にしたがって専門科目とする。(松山)
- 工学部の場合、実用と結びついたドイツ語を、たとえば、「ドイツ科学技術事情」などと称して教えてはどうか。(赤沢)

Ⅳ 本学では、一般外国語担当の専任外国人教員がいないが、今日の若者の傾向として「会話」の習得を強く希望しており、非常勤外国人講師のクラスはいずれも多数の学生が出席している。

本学の一般外国語教育に外国人専任教員を採用することは必要ではないのか。

〔一般英語には専任外国人教員がいる。〕

- 必要である。(富岡)
- 必要である。(松山)
- 必要である。(但し、語学のための語学でなく、語学と関係のない専門も持った人がよい)(保崎)

その他、自由な論議として、以下のような発言があった。「横浜という国際都市を背景に、外国語が使える卒業生を社会は要求している」(松山)

「第二の外国語の重要性は言を俟たない。その必要性を学生のガイダンスで行ない、第二の外国

語履修の動機づけを与える必要がある」

(中村平八)

「第二の外国語学習の動機づけが必要だ」(赤沢)  
「神奈川大学のアイデンティティーは何かという場合、“語学教育”だと言いたい」(中村平八)  
「第一外国語、第二外国語の転換をして、一般外国語のいずれかを第一外国語にするほうがよい」(赤沢)

「経済学部が第二の外国語を選択必修にしたのは成功であった」(富岡)

「教え方を更に考えてほしい」(富岡)

「工学部的用語を教えてほしい」(赤沢)

〔フランス語の場合、中級クラスで、文学的なものと同時に法律・経済・科学技術などの文献の抜粋を読むクラスもある〕

「ドイツ語についてゲーテ・インスティトゥートで最初の二ヶ月で教えていることを本学でもやってほしい」(赤沢)

「第二の外国語について、“…語なら少し出来ます”と、威張って言えるくらいの実力をつけてほしい」(赤沢)

「朝鮮語やスワヒリ語など、アジア・アフリカの言語を教えるのはよい」(中村平八)

以上、一時間ほどの短い、しかし、熱心な話し合いの主な内容である。

終わりに、「一般外国語教育の改革には、大学当局としての語学教育の方針がどのようなものか明確に示してもらいたい」(塚田)との発言があった。

すでに一般外国語部会で意見が一致していることも含めて、今回の会合で提出され、早急に検討しなければならない問題点は、

- ①一般外国語の初級、ないし、初級・中級の選択必修化
- ②初級週3コマ、中級週2コマ
- ③専任外国人教員の採用
- ④「上級クラス」の取扱いであった。

一般外国語部会(中本運営委員)では、その他当面する種々な問題について検討しているが、より多くの方々から率直なご意見を期待して、近くヒヤリングを行なう予定である。

(文責 倉田)

# 大学の視聴覚施設めぐり

水野 光晴

金木犀の香る晩秋の11月9日、筆者は大阪府狭山市金剛にある帝塚山学院大学の視聴覚施設を視察する機会を得た。そこで、ここにその報告と筆者の感想を述べてみたいと思います。

帝塚山学院大学の視聴覚センター（以下A Vセンター）は、初代室長がNHK放送研究所の出身であったことから、現在では極めて入手し難いとされるNHKの放送番組シリーズの録音、録画ソフトを豊富にそろえている。

このA Vセンターを利用する場合、A Vセンター内に袋物の持ち込みは禁止されているので、不要な荷物は展示ホールに設置されているロッカーに入れる。A Vセンター内での飲食はすべて禁止されている。学生はA Vセンターの受付で自分の図書閲覧証を提出して、使用目的に合わせたタグ（座席指定札）を受け取り、指定されたキャレルで視聴する。各種の資料はキャレルのまわりの棚に並んでおり、自由に取り出して利用することができる。また自分が必要とする資料がどこにあるかを知りたいときは、A Vプラザにある「資料目録カード」で調べる。キャレルを使用した学生は、必ず電源を切って元通りに整頓してから視聴した資料およびタグをカウンターに返し図書閲覧票を受け取る。

帝塚山学院大学のA V施設には多目的室（Multiple-Purpose Room）、グループラボ、タイピングルーム、パソコン演習室、個別キャレルなどがある。多目的室は約100名まで収容可能である。ここでは、講義を行ったり、スライド、レーザーディスク、ビデオなどを視聴することができる。このような教室は2部屋あるが、とりわけ印象的だったことは、教卓の横にあるコントロール・デスクのボタンを押すだけで両側のカーテンが一斉に開閉できること、さらに、ビデオ視聴時に学生がメモを取るためにダウン・ライトが設置されていることであった。このようなことは、しばしば小さなこととして見過ごされがちである

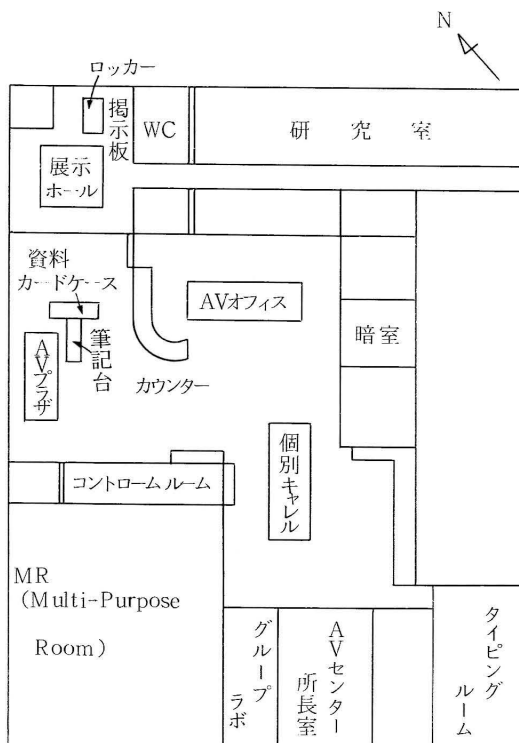
が、授業の効率を考えるならば、教師の側においても、学生の側においても看過されるべきことではない。

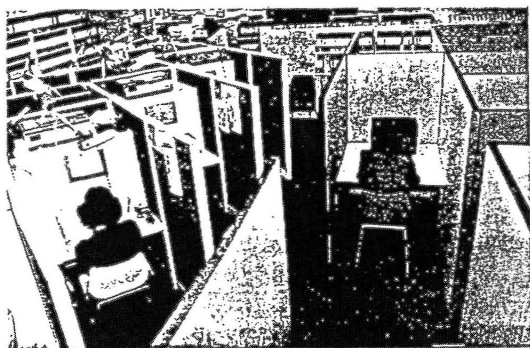
グループラボでは、10人程度のグループでスライド、レーザーディスク、ビデオ、CDなどを視聴したり、視聴覚作品を製作したりするのに利用される。

タイピング・ルームは、タイプライティング練習のための教室で、タイプを受講した学生、及び現在受講中の学生に利用が制約されている。

パソコン演習は、コンピューター操作を演習授業で指導するための教室で、20台のパソコンの表示画面を一つ一つ教卓の受像機でチェックできるばかりでなく、教師が学生の行動を展望できるようにとの配慮から、演習用のパソコンの高さは140cm以下にしてあるとのことであった。

さらに、個別キャレルにはビデオ（β、Uマチック





ク)、レーザーディスク、カセット、CD、日本語ワープロなどのキャレルが用意されている。CDのキャレルには、カセットデッキも併設されていて、クラシックオペラなどの音楽鑑賞用として、オーディオのキャレルがある。また、ビデオやレーザー・ディスクは2ヶ国語の映画を見ながら英会話の勉強をすることもできる。これらの各キャレルは、パソコン演習室のように、キャレルの利用者を何処からでも監視できるようにとの配慮か

ら、キャレルの遮蔽壁は、140cmまでにしたとのことであった。

帝塚山学院大学のAVセンター所轄の機材を列挙すれば次のようになる。すなわち、

Uマチックビデオ、VHSビデオ、ベータービデオ、OHC(オーバーヘッドカメラ)、オーディオテープ、スライド、レコード、16ミリ映画、OHP(オーバープロジェクター)、LV(レーザーヴューアー)、CD(コンパクトディスク)等々である。

最後に、この大学にあるソフト・メディアのリストをコピーしていただけないのかと筆者が遠藤氏にお願いすると、別れ際に厚みにして7cmにも及ぶソフト・メディアの詳細な資料を手渡された。そこで、主任の遠藤氏と助手の石森氏には幾重にも感謝の辞を交わし、夕闇迫る校門を後に別れを告げ、錦織りなす紅葉の坂を一人歩いて下った。

## ★新着案内★

### ☆視聴覚資料

#### 録音資料

Japanese for Busy People

起きてから寝るまで表現550

起きてから寝るまで表現550

会社編

英会話スーパーレッスン30分

(アルク地球人ムック

カセットブックシリーズ22)

やり直し英語4週間

(アルク地球人ムック

カセットブックシリーズ25)

新TIME基礎語彙1000完全攻略作戦

(アルク地球人ムック

カセットブックシリーズ27)

Speak to Learn: Oral English for

Academic Purposes

Listening Comprehension and Note-

Taking Course

マザーグースとあそぼうよ

続マザーグースとあそぼうよ

#### 映像資料

Adelante!

The Karate Kid

The Karate Kid Part II

Star Wars: Return of the Jedi

Ghostbusters

The Jewel of the Nile

Gone with the Wind

Indiana Jones and the Temple of

Doom

Beverly Hills Cop

W. シェイクスピア

(英文学有名作家シリーズ第I期)

チャールズ・ディケンズ

( )

D. H. ロレンス

( )

ジョージ・オーウェル

( )

トーマス・ハーディ

(英文学有名作家シリーズ第II期)

ヴァージニア・ウルフ

( )

ブロンテ姉妹

( )

ジェイン・オースティン

( )

Walt Disney's Alice in Wonderland

Walt Disney's Cinderella

Young Sherlock Holmes

Singin' in the Rain

Close Encounters of the Third Kind

Who Framed Roger

Gremlins

A Boy Who Named Charlie Brown

Sword in the Stone

Snoopy Comes Here

The Goonies

Star Wars

What a Nightmare, Charlie Brown

An American Tail	中国翻译家词典	漢語語法教材 第1編 基本規律
Walt Disney's Dumbo	文字学概要	第2編 詞類和構詞法
	中国语言地图集	第3編 複式句和篇章結構
<b>録音資料 (継続)</b>	中國佛學人名辭典	複合民族社会と言語問題
Active English	副语言习俗	実例で見る日米コミュニケーション・ギャップ
English Express	—手势 情态 口哨等语言现象—	比較文化のおもしろさ
The English Journal	昭通方言疏證	小学館西和中辞典
FEN ガイド	類篇	プログラミング言語AWK
時事英語研究	訓話学教程	講座日本語と日本語教育
Kiddy CAT	雲南方言調査報告(上, 下)	2. 日本語の音声・音韻(上)
日本語ジャーナル	(中央研究院歴史語言研究所專刊之56)	4. 日本語の文法・文体(上)
Direkt aus Europa auf Deutsch	广州话同音 普通话异音字汇手册	8. 日本語の文字・表記(上)
	闽南人学习普通话手册	11. 言語学要説(上)
	音韻闡微研究(中國語言學叢刊)	13. 日本語教育教授法(上)
<b>映像資料 (継続)</b>	古代汉语 (高等教育自学考试汉语言文学专业用书)	中国大百科全书(语言 文字)
España al Dia	现代汉语 (高等教育自学考试汉语言文学专业用书)	(交通)
France TV—Magazine		(军事I, II)
		(经济学I ~ III)
☆図書		(音乐 舞蹈)
中国语言学报 第3期	古汉语常见同义词辨析	(数学)
漢語口語指引(A guide to proper usage of spoken chinese)	常用同义词典	(化学II)
図説漢字の歴史	简明满汉辞典	(中国文学II)
辞海(语词分册)	世界地名翻译手册	通報T'oung Pao(初集第1卷~第10卷)
多语对照语言学词汇(英、法、德、俄、汉)	中国少数民族语言	中国语文200期纪念刊文集
语篇分析概要	成语反义同义词典	龍龕手鑒新編
语义学导论	日汉工业产权词汇	語文研究和語文教學
语用学概论	民族语言教学文集	中国语言学发展方向
普通语言学基础	古代汉语题解辞典	应用语言学论文选
应用语言学	康熙字典音讀訂誤	敦煌方言志
汉语拼音论文选	日中英石油用語集	新中日简体字研究
古汉语常用词词义歌诀	湖北方言調查報告	现代汉语通用字表
语体・修辞・风格	四川方言調查報告(上, 下)	玉篇校釋 1~6
汉语比较变换语法	湖南方言調查報告(上, 下)	人文精神, 还是科学主义?
最佳心理描写词典	說文解字繫傳	重新认语汉语汉字
口语表达训练教材	古今漢語實用詞典	汉字频度统计—速成识读优选表
语言哲学名著选辑 英美部分	中国大百科全书(化学1)	司法词典
现代西方学术文库	日英中独对照工業用語辞典	古代艺术三百题
语言文字学术论文集	英日中海事貿易基本用語辞典	馬氏文通校注
庆祝王力先生学术活动五十周年	英中日气象学用語集	汉语熟语学
中国语言的结构与人文精神	英中日土壤学用語集	汉字和汉字规范化
申小龙论文集	英中日林业用語集	口语艺术
汉字・汉字改革史	中国語文通訊(覆製合本)	语文教学评论集
生成语法理论(现代语言学丛书)	(第1卷, 第2卷)	语法修辞
	中國文學語學資料集成	
	(第1編 第1卷~第4卷)	

# 外国語研究センター 1990年度活動報告

(1) 「言語研究」の発行

No. 13 平成3年3月

(2) 「NEWS LETTER」の発行

No. 6 平成2年7月

No. 7 平成2年12月

No. 8 平成3年3月

(3) 講演会

イ と き 平成2年6月22日(金)

テーマ 「言語と思考」

講 師 D. D. C. スタインバーグ氏  
(駿河台大学教授)

(4) 連続公開講演会

イ と き 平成2年12月7日(金)

テーマ 「The Developing History of  
Psycholinguistics」  
「Ambiguity in Natural Language」

講 師 Joseph F. Kess 氏  
(カナダ・ヴィクトリア大学教授)

ロ と き 平成2年12月13日(木)～15日(土)

テーマ 「Recent Trends in Second  
Language Acquisition Research」

講 師 Craig Chaudron 氏  
(ハワイ大学主任)

(5) 語学教養講座

期 間 平成3年2月25日(月)

～3月8日(金) 10回

A. 英語講座A(英語の実際と教養)

講 師 伊藤克敏教授 水野光晴助教授  
深澤俊昭助教授 石黒敏明助教授  
橋本 侃教授 上條雅子助教授

B. 中国語講座(中国語と中国文化)

講 師 那須 清教授 大里浩秋助教授  
山口建治教授 大西克也専任講師

C. ドイツ語講座(速成ドイツ語入門)

講 師 中村浩平教授

D. フランス語講座(フランス語学・教養)

講 師 倉田 清教授 佐藤夏生教授

E. 英語講座B(楽しい英語の学び方)

講 師 松山正男教授 水野光晴助教授  
岩崎豊太郎教授 古岩井嘉蓉子助教授  
保崎則雄助教授

F. スペイン語講座(初級スペイン語)

講 師 岩根囀和教授 藤田一成教授  
大林文彦教授

G. ロシア語講座(ロシア語とロシア文化)

講 師 中本信幸教授  
岡野エレナ非常勤講師  
佐藤江一朗非常勤講師